



古今和歌集抄

八

伊地知文庫
文庫20
310
7



紀のち別
ク身はり
あし時

ぬ家力と愛と書ゆふのくふ人とも
世并に友則は集撰者として
いそ多る内より大なる并に海と心
のたつゆるといふや何はあつりての
と世までおとりの并に

忠六

いそ
清ら

時とあま秋やいれりるとき有とんた
世并に同時のあし集撰のいれとせり
是いつか母もゆふあてとるも又と心
しとそ秋や人のと云ふは
秋せ月時あしゆと紅雲の兵衛人の
秋のこの内より

九河内所恒

父のちりひあ
よた

とけくとかつあてか
とひのなる秋あつて
秋衣もつる来い俺人の
秋の内より秋とて秋衣の
とそいはくはとそいはくは

忠六

思ひは侍り
季の秋
及めく清ら

ぬ家力と愛と書ゆふのくふ人とも
世并に友則は集撰者として
いそ多る内より大なる并に海と心
のたつゆるといふや何はあつりての
と世までおとりの并に
時とあま秋やいれりるとき有とんた
世并に同時のあし集撰のいれとせり
是いつか母もゆふあてとるも又と心
しとそ秋や人のと云ふは
秋せ月時あしゆと紅雲の兵衛人の
秋のこの内より

よも極々の他法侍りされともくろくありき
世の理むりたり物なきい山田の橋また
とくくく物なきとけりともあり山田の山
久しきまじりなれと秋うかりしといふ程
とくくく羽衣のふとくもわりかき物あり
久しきも物なきとも終よるわりの事は
わらうたれい愛と親してよあるにそわく

忠岑

人の吊りおほ
つらつら
清く

雲津の若く枝の雲かればやまことと波のぬきのち
わらひよわらふ人といふ人れ波のぬきの波
かたといふ人といふ人れ波のぬきの波

女のおやの思ひ
て山守も侍り
くくく有人の
吊つりせり
清く

屋といつり打たるふ氣よそくぬき
足成の山よとる雲津の夜の神そのの侍り
わらひの山へめらむ女のもうそ親とてなれ
山里より侍りていふもわらふかかなかりき
とまして親の心にくく長くありあり
程切なるんや下りぬきあつてやそ侍り
水の面よ志のく花の多きやなもわらみけのたけか
は折るけけけつとくも志のむむいあり
止志のむむい底へ入るひるも水よ入る志のく
とまは流るれたあよ入るてとまるとく
半路へ入る志のくつとくも志のくつとく

孫国のこ
他のゆき
花を
清く

半路へ入る志のくつとくも志のくつとく

桜とてうきあり
 花もさへき時
 かのうらな人
 力まうりよき
 けそ花とえく
 落るる

あうし身まうり
 めちゆ人の家の
 柄の花とえく

何東のたは臣の
 為さうやくは
 かの家三すう
 有るるにしほ
 さいわあの子
 化りたる

又町きのわくうー村と海さくくありはち経
 物色のうせたるはまうそそゆしとわ
 庭さくきうきう奇と心と付くる人
 花もさへ人をわたに成しをれつれとえ
 なると植とていせのまよしわのうん
 ねりおがくひらると一年の花さるる
 べららなるひけぬんさうー河まくと
 みの切がる畑と心とくさうたりや
 多しも昔のまよしわ植と人のうり
 新と島一きかたけの事と理んう
 君はさく繪さくみ海の浦さひん
 三ノノオ三三

羨東のうきもは臣の
 布通の仲めくは
 侍りたるは臣の
 ずりては人も
 加母多に柄の秋
 まうきつめく
 もさうしせん
 いこさうく
 小侍をうきと
 侍りたるは臣の
 侍りたるは臣の
 侍りたるは臣の

まきふわいこれうさひんは村か
 君植一村為の孫のまけは成し
 是しまきうめこれ成しと成し
 わさうり心とけ
 友別
 友則う定有常
 心か人れ者うかよとがうけ
 とそのか人今うてふとをけ
 とのむひこそ人のうふと
 てしか人れの病といひめ

式部卿の女子園院
の云の云に佳
なりと云と云
女子の力ま
は多時一の事

惟見しを死さるるに白雲の立時と云く成りぬと
白雲の立時とはどつりの燈也と云わししは海の
くはより人なまのむらりかぬる泣く教を
かろむ人かろむ人かろむ人の死に泣く
と打鐘てあふかそき時らりや^人人の泣
なれやと云の立時と成りかぬるわれ
そら雲の極と云んてと云りされぬ
の燈と云て白雲と云汁一のゆらへと云
くくいと付さるや白雲の白雲と云ぬ
付してと云ぬと云や

の佳なる所の
の云の云と
洗つてと云
なりと云にけ
奇と云ん地

ま事ふ心ありては山は麓きれ燈と云よこ
うく大なる山は麓ともぬと云かろへ
ろくくと山の打鐘て教からんねの
と云やひ女子目にはねと云事と云の
まらると云へと云く山の麓と云と云は
えと教と云と云は行事と付と云と云や
教と云ふ事と云別が事なりと云る
男人の園へゆらぬと云の男はと云ん
と云てと云らる奇と教と云と云きと云は
と云と云と云へと云はと云と云はと云
と云と云と云と云と云と云と云と云

男の人の云みま
るるやと云
病いと云
かろむと云
海と云と云

一なるき一物とさうらふ唯とに角とみゆへ
こころ事力り心ゆりて終かた中
共うひ方紀一ゆへとあふらん

とこそわき我も昔の男山さうり時とさあゆ
勅云男山とこの通世の後びとたひひ
てしあふさふとありてゆきと注男山と
世りしき一時の事とさうゆへあひくの事
又云さうりゆへとあふらん男山と云ぬ
はあ首の世間せけんの不定ふぢやぬ事とわひひて注
井の力れ事とさうゆへとあふらん

世中よちゆり物注の國のたうれ楊と我とさうり

注はひ奇の化老まかたりへしゆりゆり
と云よわくとかうりの楊とさう名まのこゆ
と世りゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆり
とわひゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆり
心らん注よまは涼のあや
藤のよと注つじ雪のうきとゆへゆりゆりゆり
ゆ抄云とゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆり
とさうゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆり
大わりの葉のゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆり
ゆ抄云はみゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆり
ゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆり

赤梅 あさこの
ゆりゆりゆり
ゆりゆりゆり

大おのりよすそんれなる教がる人一節ハ祝ま
物るしお人一かゝるこ

かそあれいさまゝ物と年とひひてと年ひて光
とてやひくさば色からら心ひくさてし
とまゝぬ年くどうそてさうかて七年ハ
いと光ゆるすかひりくこ

とてらや難波のころお焼塩のころも我光一
かゝるもとばらうくまゝとさくみらる一む
教光と教一

光られおんとまひりせの同ててか一と答へておのさ
ひ昇一もたさま一は事とさうぬくさ

又々おのりよの
と川のすゑへみ

なる歌一此三首皆のれ過りてさとれ所といふ
也形心平とんたとい神明和光同慶とる同事や
衆生愚かれの神も又魚お成てみらひきさゆら
お一とそれくいひらる下お神めのおも侍へ一趣一
てとそれ寺なるの事と昇道の機かた左は云み
をられ翁の事終く名わり可変神統

はつと後一年とゆまんぬおをさうさひやをよかつた
光と共るま一き事と老のかか一ひれおま
かひりきつらかろ一

おとびる物一わらぬと年月と教おれりおさう一つと
おと一まかゝる年一とやいひて年とさうと教

あまうしをかけききろかむわかれうたや

とらあしとびし年とけいどれりあうとけいどれりあ

とらあしとびし年とけいどれりあうとけいどれりあ

や上るどいところあてうも我よりひはきかしてさぬ

あまうしと打敷くふうやとびし年とけいどれりあ

と道てり強もぶくもくもくもくもくもくもくも

あまうしとびし年とけいどれりあうとけいどれりあ

はきかかていの上と二たててかちえとてきよまは

連芥く思ひ立たがく年とけいどれりあうとけいどれりあ

あまうしとびし年とけいどれりあうとけいどれりあ

アム人云大伴
馬さうあり

あまうしとびし年とけいどれりあうとけいどれりあ

あまうしとびし年とけいどれりあうとけいどれりあ

あまうしとびし年とけいどれりあうとけいどれりあ

あまうしとびし年とけいどれりあうとけいどれりあ

あまうしとびし年とけいどれりあうとけいどれりあ

あまうしとびし年とけいどれりあうとけいどれりあ

あまうしとびし年とけいどれりあうとけいどれりあ

あまうしとびし年とけいどれりあうとけいどれりあ

あまうしとびし年とけいどれりあうとけいどれりあ

世中ふうり別のかくもあまうしとびし年とけいどれりあ

あまうしとびし年とけいどれりあうとけいどれりあ

あまうしとびし年とけいどれりあうとけいどれりあ

あまうしとびし年とけいどれりあうとけいどれりあ

詞よも

イセモノカタリ
ニ同

寛平時時后言の
新令の之り

古今抄卷五

在皇公社ヤナ

おのり時時のうのさ
むらゆく言さる
おのり時時
おのり時時
おのり時時

と不知

白雲の公ヤミよりきける山カくも老カよりくも

山カ白雲の公ヤミよりくも山カ言カ海カも

まは枕カ銀カくされともカ早カおれカはカのカくも

おろくくといひくもく老カゆる事カくもく

とくもくためくもく山カくもく

光カをそがら我カ力カせめくもく光カとカ分カふカあカおカいカ

此カ扱カせめきくもくカ責カ来カくもくカ歌カくもく

いカ言カまカいカわカくもく

子カ孫カ振カらカのカ橋カ守カかカんカとカとカ教カとカいカふカ年カのカ

山カ抄カらカくもくやカつカとカはカ神カとカつカけカ孫カとカいカわカ

舟カもカいカくもく銀カくもく力カ業カくもくいカわカりカ

守カのカ娘カのカ神カ我カ年カれカむカひカめカるカ事カとカ歌カわカまカり

りカ橋カ守カのカ年カへカめカるカとカ神カとカいカふカ年カのカ

守カのカいカひカくもく通カとカちカるカ神カとカいカふカ年カのカ

かカ人のカいカくもく光カゆるカはカ我カ力カとカいカふカ年カのカ

かカ年カくもくてカらカるカ事カ成カへカむカ西カ白カく

我カんカくもく久カくもく成カりカ信カ吉カのカ老カれカ娘カ松カくもく世カへカんカ

是カもカ光カをカるカ人カれカくもく母カやカわカらんカ心カいカ美カるカ

娘カ松カのカ臺カのカ西カくもく娘カ年カ四カつカらカ松カのカ一カかカ計カ

かカとカわカらんカとカくもくいカくもくいカくもくいカくもくいカくもく

むカひカくもくいカかカらカるカ事カとカいカふカ年カとカそカはカ奇カ松カ

一カ奇カ

位高れ岸の姫松介さうりく代へさうりく物と
心を義なり

持弓、その小松世おのあ代までたのし
わく被さうりく許さひてきてる松のう

多くもおねいりうまうさうりく世
りあ代までと種とまも死てうりく世

ひとまひや舞いあまひうりく世
わうりく世強はうりく世の尾上たじくねう

此はたうりく世とせう治まがさうりく
のうりく世とせうかうりく事とな

言さうりくやうりく世とせう

て久しれもとあうりく

唯どうも知人せんら妙の松も青の交がうりくお

心いつあうりく事とあうりく世

おしこの男の上とあうりく世とあうりく世

性身とせうりく世とあうりく世

いあうりく世とあうりく世

それと又紙ひうりく世とあうりく世

うりく世とあうりく世

たひとあうりく

口ひ海のおうりく世とあうりく世

此妙はたうりく世とあうりく世

水のあうりく

おのり或の云
掃ぬの人を
うり

真向

夕方をかくれ物としてさうと又消もせぬ
 とのからと力のうへに記さばかしくゆりよ
 たる云うやト心づる海は大海とそれと
 世界せふより極とわらひの方へ又一か
 わひといふ者思れらふれ世界せふなる者思とわ
 ちとみひんく我力のうへいてさうかたの
 理とさぬ教に

りる見のなうよせざる白妙の浪とてゆづ浪路わいらじ山
 水はた白波の上より浪路わいらじうへひて西
 白見つゝされえととなく海林うみりんのかうり
 ちる波とてゆひたてしはゆとく人

ちるうやみくうや眺ながむのらく

和面の原とせは浪の志はくもみまのけさるゆ
 是も遠とほむのらく志とくしきけくかた
 ひーまじ

誰かゆ極みちろしわり教たなぬゆよ田うら島じま

ちんもきまわの奇れんわり教いぬのん
 ちんてさうくみわかなんて 友系をうへま

ちんと思ひたうの濱と鳴るのめたれとわりのこ
 ちん思ひたうの濱と鳴るのめたれとわりのこ
 ちん思ひたうの濱と鳴るのめたれとわりのこ
 ちん思ひたうの濱と鳴るのめたれとわりのこ
 ちん思ひたうの濱と鳴るのめたれとわりのこ

いちちちちのふみ
 侍りたる時とちち
 よりさへちちして
 さくちちし

五

又わりと字にいさくせりたがひ 昔々

奥津波おくつなの瀆のへ松れなほと云ふ海

亦注沖は浪たうと云ふ名のやうな海

松れ名うと云ふは名をたれやうと云

と云ふと云ふと約つていふと云ふと云

てと云ふと云ふと云ふと云ふと云ふ

と云ふと云ふと云ふと云ふと云ふ

難波なんばのたつたもと云ふと云ふと云ふ

上の義がうと云ふと云ふと云ふと云ふ

の事やがうと云ふと云ふと云ふと云ふ

かり海わりのたつたもと云ふと云ふと云ふ

と云ふもそれかうと云ふ

忠穴

住者と云ふは海にたつたもと云ふと云ふ

と云ふと云ふと云ふと云ふと云ふ

それと云ふと云ふと云ふと云ふと云ふ

と云ふと云ふと云ふと云ふと云ふ

人の海と云ふと云ふと云ふと云ふと云ふ

と云ふと云ふと云ふと云ふと云ふ

昔々

雨ふと云ふと云ふと云ふと云ふと云ふ

明

若国わくにのたつたもと云ふと云ふと云ふ

と云ふと云ふと云ふと云ふと云ふ

新波しんばのたつたもと云ふと云ふと云ふ

相知りと云ふ人の

住者と云ふは海にたつたもと云ふと云ふ

と云ふと云ふと云ふと云ふと云ふ

新波しんばのたつたもと云ふと云ふと云ふ

法皇と云ふと云ふと云ふと云ふと云ふ

布あはくさくさんふわの瀧の咄也たき

法郎のせれ白糸くりたぬ山か夜とりてきま

たきの白糸とらんぬの糸かへ山か夜と

とりてきま物と云ふ山か夜と法郎の

法郎のせれ白糸くりたぬ山か夜とりてきま

たきの白糸とらんぬの糸かへ山か夜と

とりてきま物と云ふ山か夜と法郎の

法郎のせれ白糸くりたぬ山か夜とりてきま

たきの白糸とらんぬの糸かへ山か夜と

とりてきま物と云ふ山か夜と法郎の

法郎のせれ白糸くりたぬ山か夜とりてきま

瀧のわあくたならぬ縮ひらう人もか糸物と何山姫の布あうすは
伊勢カ

とさうとそとくきふ人とき常の人あ

てたうそらぬぬ夜いき人れゆわやか

かあ山姫の布うととんと云あわりは弁の

仲平よとられて久う大和よゆらあゆては

はは瀧門へまうてとよる弁山姫のううかく

せんかさと我なひうととてとら我のふ

と人と切ととくもそれとこそやれ月人

もか糸物とととせとり伊勢の帝一物と

とみうとくうと家集よと見くゆれん

弁よと本懐のたかきとそれのこかとと弁人

の一部のやうとあしめて弁の心と志れとそ

まゆてとせる布とセタうと紙ととやとふらさし

昔は法郎の山布
川の流るり後見
おとす月の七日の日
おとす月の七日の日
おとす月の七日の日

橋十カモリ

とどろむゆりかたへ一若れけり乃陰乃二流る
若のより通つて若れし一若り 是切紙を
付るとまゝ一若りて行ま同

程けり人のひりくるき若れた世のしこのい
されいふ若れし若れまゝや

いかなん若れの中若れは世のうれあゆこ
いれりたは世一すこ倦てりこのうら若れ

あこれそ若れとなひはくろよまゝ一
と世のうら若れ事と若れくいら若れし
中一しと海いふとき若れ甚深の若れ

下^下若れの中一若れし一若れ事一若れ
付紙一有

あつこ若れた心よ若れし若れ若れり 付紙一有

若道の若れ流りよ若れ若れ若れ若れ若れ若れ
若事一若れ若れ若れ若れ若れ若れ若れ若れ若れ

若れ若れ若れ若れ若れ若れ若れ若れ若れ若れ
若れ若れ若れ若れ若れ若れ若れ若れ若れ若れ

若れ若れ若れ若れ若れ若れ若れ若れ若れ若れ
若れ若れ若れ若れ若れ若れ若れ若れ若れ若れ

若れ若れ若れ若れ若れ若れ若れ若れ若れ若れ
若れ若れ若れ若れ若れ若れ若れ若れ若れ若れ

若れ若れ若れ若れ若れ若れ若れ若れ若れ若れ
若れ若れ若れ若れ若れ若れ若れ若れ若れ若れ

ふかぬる書にこそしておぼくひやひよま
とよめるに於てのよにやねとてま舟のわたりと
まはり又うねきき書の清やときほよこりり
世のうねあひしぬ山海つんよらふ人をかへて
ゆいまをいふしきとひかき事し作者も
のこしお

新恒

山ノホウシ
モトツカ
ケル

世と捨て山へ入山せもたうと海に沈ちりぬん
たふのむねと人へまきまふんむらうや
又付紙よまきうー山のほつしものりよま
る

モノヲモロキ
トキノイトキ
ナキコノミ
ヨメル

まきふわしとまきうや ヨこ人不知

タイニラス

世にやれいまのまきう異行のうねうーとに書のかく
まのまきうまは世にうらとりのまきうさかり
うねい世のまきうま一うかゝるまき異行の世と
まきうまきうま一うかゝるまき異行の世と
うねい世のまきうま一うかゝるまき異行の世と
まきうまきうま一うかゝるまき異行の世と
まきうまきうま一うかゝるまき異行の世と
まきうまきうま一うかゝるまき異行の世と

まきうまきうま一うかゝるまき異行の世と
まきうまきうま一うかゝるまき異行の世と
まきうまきうま一うかゝるまき異行の世と
まきうまきうま一うかゝるまき異行の世と
まきうまきうま一うかゝるまき異行の世と
まきうまきうま一うかゝるまき異行の世と
まきうまきうま一うかゝるまき異行の世と

司トケテ侍
ケルトキヨメル

山ひのさきつらのははらばらまこれぬおなれ
我方のとつ我にも人たなひりれぬれい
たとへまかゆらや人のとつはまこと山ひ
ホキくへてつらや 付帯 ますた道お藍とて
ぬ宿し けらん 女とむし

一平貞文

ほ世よの心せのたかかおまとう紙勢の出とよはる

心とくしとまおれい又まうくくやま 付帯 一二白
わくしと物

とくしてぬ命まの別の程計うと事まのくふい

心渡りぬまうくひかや 付帯 一切の人とへき理
見このま 付帯 たらうれおゆるとは宿ままに

しとほしと時かしていかに宿 けんの皮 東交の西

ニコノニヤシテ
ハキニ侍ケルテ
マツカツカウ
マツカスツカウ
テ侍ケルトキニ
ヨメルニヤシ
キヨキ

けくまの木の叶しとふまをうまの山の新と
まの山とまま交のれ事とそつりは
とれのまれかすくまのりとのたうくと
びんま交のれくまのりとのたうくと

たのじ事わらわ 清原フカヤフ

時ナリケル人ノ儀
ニトキナクナリテ
ナケクアミテミウ
カラノナケキモナク
ヨロコビモナキテ
思テヨメル

先が記若ぬまのまかれ候てと敷物ひま
ますあつたにたえがまき若と月日のひ
とつぬまに世のうまよわらわぬ
ままはらわらぬとまのまの海は失の
まらされつとまのまのまをたむ

あつととまよひの勅勅の人れ奇二廿八あり
 ときりしひれ奇二とよのき人わりの神祿又ひ
 救れけく人のよとよのき人あつととまよひ
 又よと人よととよとよとよとよとよとよ
 集の存実し第一よす持りよとよとよとよと
 とよとよとよとよとよとよとよとよとよとよ

いふ家よ我世のあんする系やうの国屋のあまは
 只依んといつうの出嶽しよる系や依んといつう
 大和しび弁の心いひまのあまはつうとよとよとよ
 ちよとよのあまはつうとよとよとよとよとよとよ
 我世とよとよとよとよとよとよとよとよとよとよ

ひらけしきかまきまきしする系や依んの里といふ
 乃境界かりする系は事のためくわいなり
 て人のあまはたぐい國といやうあ人のふすあど
 かり時た神のあまはつうとよとよとよとよとよ
 治事かきまきあまはつうとよとよとよとよとよ
 心みたりけしきとよとよとよとよとよとよとよ
 ましとよとよとよとよとよとよとよとよとよとよ
 冬いふとよとよとよとよとよとよとよとよとよ
 ちよとよとよとよとよとよとよとよとよとよとよ
 け時あつととよとよとよとよとよとよとよとよ
 の世とよとよとよとよとよとよとよとよとよとよ

仁義貞之理故一日非以時和光同塵一始
て非正とて一法を以てあま一法を以て
付常
此奇の目非の正法なり

我々の三毒の山より無くならんといふも世に
世奇の三毒の的の非の正法なりといふも
かやまは不可用といふは世に非の正法
の正法なりといふは世に非の正法なり
軍の爲にこれの義に教ふては門に有傳
下心我々の三毒の山より無くならんといふも
我々の貪瞋癡の三毒のわづらふたうして
は痛くは世に非の正法なり

き世の三の毒とて一法を以て治ふ非の正
の正法なり三毒の山より無くならんといふも
世に非の正法なりといふは世に非の正法なり
又人といひ三毒のわづらふたうしては門に有傳
世に非の正法なりといふは世に非の正法なり
我々の三毒の山より無くならんといふも
世に非の正法なりといふは世に非の正法なり
世奇の三毒の山より無くならんといふも
世に非の正法なりといふは世に非の正法なり
我々の三毒の山より無くならんといふも
世に非の正法なりといふは世に非の正法なり

ヨミ人

志しむとまじしと人すもえさるるをいふ人か
 家とくやき推と力とれさるるをいふ人か
 かな人との執撰か人か世奇とくめど
 かしらうかきと秋の月の曉のやまあつら
 かしらとえんの席はよりしと半のせつり
 下心我座とい王舎城のく我とい心王天台
 王脚心王舎則五蘊と人しと是は城か
 是は法カ之部と家と都のうらととと世と
 うらゆと人又蘊の中六塵のゆらととい
 善悪た一心と事ととと人かの教
 わまらるるり教と世の荒れや位々人の善法と

ありき人かとのをりのたひひのふあ
 ともく位わし人もりまきととぬくと
 ともくもか死田宅とうらかならぬと
 世の荒れとくひとあまれむと下ふ世の
 ふらりうくとて人の心はまらりとと
 とわきえらるる病ととり位々人の善法と
 かとと人仁心の失らとと仁の機人
 物されやとと持うかよととり
 物かよとと病とと人か人教らとと
 世奇遍服の信名とと事かたよ女のと
 とくやわとと奇かたといとと又信の時の

ナラニカリケルトキ
 ニアレタル家ニ
 ナノコトヒキタル
 ナキニテヨミナ
 イレタリケル

奇しやわきまをわきまに興りしをわきまに
よあり心はわれをわきまにわきまに
ひんしとわきまにわきまにわきまに
歎んは歎んはわきまにわきまに
心下心生死の二法はわきまにわきまに
大凡空の又新のわきまにわきまに
のわきまにわきまにわきまにわきまに
とわきまにわきまにわきまにわきまに
後今とわきまにわきまにわきまに
安しとわきまにわきまにわきまに
わきまにわきまにわきまにわきまに

わきまにわきまに

二三

ハツセニマウ
スル道ニナラ
ノ事ニヤトシリ
ケルトキヨメル

人少しとわきまにわきまにわきまに
物わきまにわきまにわきまにわきまに
かりかゝるも人の事とわきまにわきまに
あももゝまゝ名にわきまにわきまに
されとのわきまにわきまにわきまに
かゝる人れはわきまにわきまにわきまに
りてても日然しわきまにわきまにわきまに
しあとも心で富貴を命にわきまにわきまに
わきまにわきまにわきまにわきまに

ヨ三人不知

題不知

世中ハ流しなうして我がらんりともまらんとそわきまに

家ヲウリテ
ヨメル

雑^{ざつ}奇^きの^の後^ご道^{だう}の^の中^{ちゆう}に^にさ^さと^とわ^わつ^つる^るこ^この^の事^{こと}
 道^{だう}と^とわ^わけ^けの^の王^{おう}法^{ぽう}金^{ごん}一^{いつ}世^{せい}も^もた^たけ^けの^の法^{ぽう}
 法^{ぽう}わ^わつ^つる^るは^は九^く首^{しゆ}と^とめ^めん^んと^とら^らる^るも^もし^し
 飛^{あし}多^た川^{せん}淵^{えん}よ^よも^もわ^わつ^つぬ^ぬ紙^し宿^{じやく}世^{せい}に^につ^つり^り物^{ぶつ}お^おも^もる^る
 世^{せい}に^につ^つり^りと^と淡^{たん}と^と立^た入^いる^ると^とま^ま大^{だい}一^{いつ}奇^き結^{けつ}ひ^ひ奇^き
 是^{こゝ}ら^のわ^わつ^つる^る川^{せん}と^と一^{いつ}ひ^ひ也^やと^と事^{こと}め^める^るは^は川^{せん}
 の^の淵^{えん}せ^せう^うけ^ける^る事^{こと}た^たと^と然^{ぜん}の^の理^りこ^この^の方^{かた}
 さ^さう^うへ^へて^ては^はは^はつ^つる^るも^も兼^{かね}て^てう^うつ^つる^るも^も自^{みづか}身^みの^の
 後^ごに^には^は奇^きの^の女^{によ}中^{ちゆう}勢^{せう}一^{いつ}傳^{でん}受^{じゆ}の^の奇^きよ^よと^とせ^せ
 守^{まも}る^る事^{こと}も^もい^いは^はる^る奇^きの^のさ^さは^はと^と一^{いつ}も^も
 力^{ちから}と^とた^たま^まび^びる^る道^{だう}の^の使^{たし}とも^もか^かと^とこ^こめ^めは^は世^{せい}中^{ちゆう}

ツクニ侍ケル時
 御覧ウテキチ
 ンヒケル人ノモト
 一京ニカヘリマウ
 テキチテツカハシ
 ケル

是^{こゝ}に^につ^つけ^ける^る物^{ぶつ}と^と行^いく^く人^{ひと}一^{いつ}味^{あじ}は^は眼^{まなこ}と^とも
 か^かく^く物^{ぶつ}一^{いつ}と^とま^まる^る挑^{てん}も^もか^かく^く人^{ひと}ま^まも^もを^を結^{けつ}
 進^{しん}退^{たい}の^のま^まら^らひ^ひ奇^きも^もい^いは^はる^ると^と奇^きの^のさ^さは^は又^{また}
 対^{たい}勝^{しょう}か^かり^りと^とも
 紀^き友^{ゆう}別^{べつ}
 ち^ちか^か一^{いつ}と^とま^まわ^わつ^つと^とお^おれ^れえ^えの^の柄^{へら}一^{いつ}お^おと^と意^い一^{いつ}り^りる^る
 世^{せい}界^{かい}の^の統^{とう}策^{さく}と^と是^{こゝ}を^を打^うつ^つる^る朋^{とも}友^{ゆう}の^のま^まと^と氣^き
 一^{いつ}も^もい^いは^はる^ると^とま^まり^りと^とる^る奇^き一^{いつ}王^{おう}質^{しつ}の^のた^た事^{こと}も^もり
 お^おも^もひ^ひを^をつ^つり^り心^{こゝろ}に^にお^おと^と人^{ひと}の^のこ^ころ^ろに^にお^おも^もひ^ひも
 わ^わつ^つぬ^ぬお^おも^もじ^じひ^ひあ^あれ^れの^の契^{せき}り^りと^と成^なる^る心^{こゝろ}に^に一^{いつ}
 一^{いつ}も^もい^いは^はる^ると^とま^まり^りと^とる^る奇^き一^{いつ}和^わの^のま^まと^とお^おも^もひ^ひ
 ち^ちか^か一^{いつ}と^とま^まわ^わつ^つと^とお^おれ^れえ^えの^の柄^{へら}一^{いつ}お^おと^と意^い一^{いつ}り^りる^る

わうありし神の中も今もせん紋印のたれらら
 是の女友ころの物渡しして後にはうらうらと
 じ女の夫ころうれさ心ずれかりお別ら友よ
 こころいさう一傳さ物ころ難きやう共あま
 ともあまもかろころこれんまてうらうらと
 ろまう一まころの思りんまてころ事故一
 ころころか紙一とよはらうらうらと一ころこの
 ほととねむいさうゆ一こそ 後一タフサ
 才一折のよれえう今も初おのたまわくおとねふは
 寛平これ時ころの判友よあされてゆらう
 一長文のころあむあむあむのころころ何だう

シヤ知
 後人
 凡そ其津白浪立田山秋まも君独あむ
 け弁の事既位密勘よ真津白浪盗人
 云事おがはうか一ころひてしと業力葉よ
 伊勢の山鳥のは井あくわらうこの仲津
 白浪立田山いりあかん君あわたりん

奉りてははて
み降くまゆり

雲の上まてやんはらんやの續と云んは
り昔尸人あまこゝの鳴鳴九鼻解聞天
こま文とごりてよりり宿位とれえり人の迷懐
かろへ

為系備長

人志れと心いふますこまいとく病うめにも見ん

ま鹿のま出ろの枕初し是ものそじとゆくよ

りの奇かろへー 本文 月四九奇かろへー 宿位

かとりしむすまんま鹿のま出くこいり
為く又鹿のみろ人れ電しとる物されの若よんこ
じんへーまろくまよりま出くこはま立力ののこ
たあふいまこといあり 一か結

奇めーまろ時
奉りてははて
あくまろつて
まろ

門のまのま百敷とまろまろまろまろ
まの寛平の門ありぬはくは伊勢も林中
まのゆまろまろまろまろまろまろまろまろまろ
後出門のまろ人まろまろまろまろまろまろまろ
みやまろまろまろまろまろまろまろまろまろまろ
門のまろまろまろまろまろまろまろまろまろまろ
まろまろまろまろまろまろまろまろまろまろまろ
まろまろ



